

岩石

絶滅 EX

野生絶滅 EW

絶滅危惧ⅠA類 CR

絶滅危惧ⅠB類 EN

絶滅危惧Ⅱ類 VU

準絶滅危惧 NT

情報不足 DD

絶滅のおそれのある地域個体群 LP

大分市内を流れる大野川流域・七瀬川流域のれき・佐賀関(ささらに、高崎山の角閃石安山岩(かくせんせきあんざんがん)、

がのせき)半島の三波川変成岩(さんばがわへんせいがん)を主にのせました。野津原(のつはる)地域に見られるめずらしい岩石をのせています。

1 無斑晶流紋岩
(むはんしょうりゅうもんがん)



大野川上流域から流れてきた、祖母嶺(そぼかたむき)火山岩類の一つです。持ちょう的な流紋があり、斑晶がないことも持ちょうのひとつです。このれきがあると大野川の堆積物(たいせきぶつ)だと推定(すいてい)できます。

2 角閃石安山岩
(かくせんせきあんざんがん)



高崎山を形成する岩石です。黒い斑晶は角閃石、白い部分は長石(ちようせき)です。府内(ふない)城の石垣にも多く用いられています。

3 輝石安山岩
(きせきあんざんがん)



野津原のハゼ山、たん水の台地、高石神社のふきんに見られます。黒い斑晶の部分は輝石(きせき)です。

13 竹葉石
(ちくようせき)



七瀬川流域で見られます。県下では、この地域だけのめずらしい岩石であり、地元では笹目石(ささめいし)や笹石(ささいし)とも言われています。黒い部分は蛇紋岩です。

14 塩基性片岩
(えんきせいへんがん)



三波川(さんばがわ) 結晶片岩で、緑色片岩と言われていました。緑泥石(りよくていせき)や緑れん石、角閃石などの有色鉱物をふくみ、淡(たん)緑色〜濃(のう)緑色をしめします。

15 でい質片岩
(ていしつへんがん)



三波川結晶片岩。原岩は泥岩(でいがん)で、石墨(せきぼく)や石英(りよくていせき)や緑れん石、角閃石などの有色鉱物をふくみ、淡(たん)緑色の発達(はつた)が強いです。

4 花崗岩
(かこうがん)



下矢ノ原(したやのばる)から荷尾杵(におき)にかけて見られます。白っぽい長石ととうめいな石英(せきえい)が多く、黒雲母(くろうんも)が非常に少ないです。

5 電気石花崗岩
(てんきせきかこうがん)



大野川の上流から流されてきた岩石で、原岩は豊後大野市緒方(おがた)川上流の尾平(おびら)で見られます。黒い部分は電気石でめずらしい鉱物です。

6 花崗閃緑岩
(かこうせんりよくがん)



野津原山中(やまなか)地区周辺に見られ、山中花崗閃緑岩と呼ばれています。成因(せいいん)年代は1億年より古い岩石と言われています。黒い部分は角閃石です。

16 砂質片岩
(さしつへんがん)



三波川結晶片岩や泥岩(でいしつ)片岩に比べると片理の発達(はつた)が弱いです。緑泥石(りよくていせき)や緑れん石、角閃石、絹雲母(きぬうんも)などが主な構成鉱物(けいこうこうぶつ)です。

17 石灰質片岩
(せっかいしつへんがん)



高島(たかしま)や関崎(せきざき)灯台下(とうた)海岸、福水(ふくみず)海岸で見られます。白っぽい岩石で、まれに緑泥石(りよくていせき)をふくみ、片理(へんり)にそって割れやすいです。

18 ロジン岩



佐賀関の海岸で採石(さいせき)されます。蛇紋岩(だもんがん)作用で生じるカルシウムに富んだ長石(ちようせき)や透輝石(とうきせき)などの鉱物(こうぶつ)をふくみます。県下(けんか)でもまれな岩石(いし)です。

7 閃緑岩
(せんりよくがん)



七瀬川・大野川流域のれきに見られます。白色部分は長石、黒い部分は主として角閃石から成り、輝石類(きせきるい)の有色鉱物(しよくこうぶつ)もふくまれます。

8 斑禰岩
(はんれいがん)



大野川流域のれきにまじって、まれに採石(さいせき)できます。全体的に黒く、かんらん石、輝石、角閃石の有色鉱物(しよくこうぶつ)から成ります。非常にかたい岩石(いし)です。

9 蛇紋岩
(じやもんがん)



野津原羽原(はばる)、佐賀関半島で見つかります。特に佐賀関の黒ヶ浜(くろがはま)海岸は蛇紋岩(だもんがん)のれきでできています。またマンガン鉱床(こうしやう)をとまなうことが多いです。

19 片麻岩
(へんまがん)



七瀬川流域で採石(さいせき)されます。へんま岩特有の縞状構造(しまじようこうぞう)と、白雲母(しろうんも)などの構成鉱物(けいこうこうぶつ)が見られます。

20 れき岩
(れきがん)



様々な岩石(いし)が固まってできた岩石(いし)です。七瀬川流域のれき岩は、赤(あか)色が多く、大野川流域のれき岩は原岩(げんがん)の色をしめす物が多いです。

21 砂岩
(さがん)



大野川や河原内(かわらうち)、七瀬川流域に見られます。河原内流域の砂岩(さがん)はかたく、建設用(けんせつよう)に利用されています。

10 溶結凝灰岩
(ようけつぎょうかいがん)



9万年前(きゅうまねん)の阿蘇(あそ)の大噴火(だいふんか)で生じた火山碎屑岩(かざんさいせつぶつ)が溶結(ようけつ)してできた岩石(いし)です。永興(りようこう)や吉野、野津原などで見つか、建築材(けんちくざい)として利用(りよう)されました。

11 角閃石
(かくせんせき)



安山岩(あんざんがん)、玄武岩(げんぶがん)などの黒(くろ)っぽい火成岩(かせいがん)が地下深く(ちかふかく)で高温(こうん)・高圧(こうあつ)の作用(さよう)を受けてできる変成岩(へんせいがん)の岩石(いし)です。野津原地域(のつはる)には比較(ひかく)的(てき)に(ひかくてき)多く見(み)られます。

12 角閃石のペグマタイト



七瀬川上流域(なせがわ)でまれに見(み)られます。緑色(りよく)をおびる黒い部分(くろいぶぶん)は角閃石(かくせんせき)で、大きい物(もの)は10cm以上の物(もの)があります。白い部分(しろいぶぶん)は長石(ちようせき)で、県下(けんか)でもこの地域(ちいき)しか見(み)られません。

22 泥岩
(でいがん)



大野川流域(おのがわ)のれき。黒く(くろく)て緻密(ちみつ)でかたいことが持ちょうです。層理(そうり)にそって割れやすく、まれにイノセラムスなどの貝化石(かいいし)をふくみます。

23 シルト



砂(す)より小さく、ねん土(ねんど)より大きい粒子(りゅうし)が固(か)まってできた堆積岩(たいせきがん)です。大分層群(おのたむらぐん)中(ちゆう)に多く見(み)られ、露頭(ろとう)によってはケイソウや、木の葉(のの)の化石(かし)をふくみます。

24 チャート
(左:赤色系,右:白色系)



放散虫(ほうさんちゆう)などのホネや殻(から)が海底(かいぞ)につもってきた堆積岩(たいせきがん)のことで、けい酸(けいさん)が多く(た)てもかたいことが持ちょうです。赤(あか)かた(た)色(いろ)や白(しろ)色(いろ)の岩石(いし)があります。